戊辰戦争と仙台藩

仙台市博物館
学芸企画室　中武 敏彦

戊辰戦争とは？

1853年(嘉永6年)6月3日
・アメリカ使節のペリー来航

1867年(慶応3年)10月14日
・徳川幕府が朝廷へ政権を返上(大政奉還)

同年12月9日
・明治新政府の樹立(王政復古の大号令)

1868年(慶応4年)1月3日
・京都の鳥羽・伏見で新政府軍と旧幕府軍が開戦

↓ 新政府軍との1年半に渡る戦い＝**戊辰戦争**

1869年(明治2)年5月18日
・箱館の五稜郭の戦いが終了

なぜ「戊辰」戦争と呼ぶのか？

干支順位表

① きのえね 甲子 コウシ(キッシ)	② きのとうし 乙丑 イッチュウ	③ ひのえとら 丙寅 ヘイイン	④ ひのとう 丁卯 テイボウ	⑤ つちのたつ 戊辰 ボシン	⑥ つちのとみ 己巳 キシ	⑦ かのえうま 庚午 コウゴ	⑧ かのひつじ 辛未 シンビ	⑨ みずのえさる 壬申 ジンシン	⑩ みずのとり 癸酉 キユウ
⑪ きのえいぬ 甲戌 コウジュツ	⑫ きのとい 乙亥 イツガイ	⑬ ひのえね 丙子 ヘイシ	⑭ ひのとうし 丁丑 テイチュウ	⑮ つちのえとら 戊寅 ボイン	⑯ つちのとう 己卯 キボウ	⑰ かのえたつ 庚辰 コウシン	⑱ かのとみ 辛巳 シンシ	⑲ みずのえうま 壬午 ジンゴ	⑳ みずのひつじ 癸未 キビ
㉑ きのえさる 甲申 コウシン	㉒ きのとり 乙酉 イツユウ	㉓ ひのえいぬ 丙戌 ヘイジュツ	㉔ ひのとい 丁亥 テイガイ	㉕ つちのえね 戊子 ボシ	㉖ つちのとうし 己丑 キチュウ	㉗ かのえとら 庚寅 コウイン	㉘ かのとう 辛卯 シンボウ	㉙ みずのえたつ 壬辰 ジンシン	㉚ みずのとみ 癸巳 キシ
㉛ きのえうま 甲午 コウゴ	㉜ きのひつじ 乙未 イツビ	㉝ ひのえさる 丙申 ヘイシン	㉞ ひのとり 丁酉 テイユウ	㉟ つちのえいぬ 戊戌 ボジュツ	㊱ つちのとい 己亥 キガイ	㊲ かのえね 庚子 コウシ	㊳ かのとうし 辛丑 シンチュウ	㊴ みずのえとら 壬寅 ジンイン	㊵ みずのとう 癸卯 キボウ
㊶ きのえたつ 甲辰 コウシン	㊷ きのとみ 乙巳 イツシ	㊸ ひのえうま 丙午 ヘイゴ	㊹ ひのとひつじ 丁未 テイビ	㊺ つちのえさる 戊申 ボシン	㊻ つちのとり 己酉 キユウ	㊼ かのえいぬ 庚戌 コウジュツ	㊽ かのとい 辛亥 シンガイ	㊾ みずのえね 壬子 ジンシ	㊿ みずのとうし 癸丑 キチュウ
(51) きのえとら 甲寅 コウイン	(52) きのとう 乙卯 イツボウ	(53) ひのえたつ 丙辰 ヘイシン	(54) ひのとみ 丁巳 テイシ	(55) つちのえうま 戊午 ボゴ	(56) つちのひつじ 己未 キビ	(57) かのえさる 庚申 コウシン	(58) かのとり 辛酉 シンユウ	(59) みずのえいぬ 壬戌 ジンジュツ	(60) みずのとい 癸亥 キガイ

戊辰戦争の主な戦い

1868年(慶応4年)
1月3日～6日　鳥羽・伏見の戦い
4月11日　江戸城開城
4月下旬～　北関東の戦い
5月15日　上野戦争(彰義隊の戦い)

5月1日～9月25日　奥羽・北越戦争(会津戦争)
→仙台藩は奥羽越列藩同盟軍の事実上の「盟主」として参戦
(仙台藩の降伏は9月15日)

10月～明治2年5月18日　箱館戦争(五稜郭の戦い)

奥羽越列藩同盟への道

鳥羽・伏見の戦いと仙台藩

・1月3～6日　鳥羽・伏見の戦い
→敗れた徳川慶喜・松平容保(会津藩主)らが「朝敵」として討伐の対象に

・1月17日　仙台藩、朝廷から会津藩征討を命じられる
・1月29日　会津藩、仙台藩に朝廷への仲介を依頼
・2月17日　仙台藩に「錦旗」が下される

→朝廷からの命令と会津藩からの頼みの間で揺れる仙台藩論
「朝廷の命に従い会津に出兵すべき」
「戦争回避の道を模索すべき」

仙台藩に下された錦旗（当館蔵）

幕末の仙台藩

・朝廷への政権移行には異論はない

仙台藩主・伊達慶邦 「徳川の御家も遠からずと存じ候」

（元治元年・1864）10月27日付、重臣宛伊達慶邦書状

→徳川幕府の滅亡を予感

・朝廷政権に期待したこと

衆議を尽くし公平中正の政治を要望

（慶応3年・1867）10月21日付、京都留守居役松崎忠太夫の上書

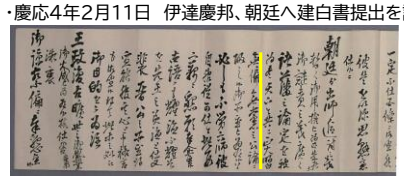
→国政の大事は各藩が集まっての会議で決めるべき

「衆議」「公議輿論（公論）」の考え

伊達慶邦画像（当館蔵）

伊達慶邦の建言

・慶応4年2月11日　伊達慶邦、朝廷へ建白書提出を試みる



伊達慶邦建言書の控（当館蔵）

→「朝敵」の処置は公平正大・無偏無党の「公論」で決めるべき
それまで征討軍の派遣は止めるべき

建言書を家臣に持たせて上京させるが…
① 新政府が江戸へ向け征討軍を出発させた後なので断念
② 駿河（静岡）で提出　→却下

奥羽列藩同盟の芽生え

・2月15日～　伊達慶邦、米沢・盛岡・弘前・秋田・二本松藩主に宛て、建言書提出を報告し、各大名に協力を依頼

◇揺れる奥羽諸藩

・仙台藩以外にも、奥羽諸藩に会津藩追討令や、追討の応援が命じられる

→戦争は避けたい
周囲の藩と孤立することも避けたい
仙台・米沢・秋田藩など大藩の意向は？

・玉蟲左太夫と若生文十郎を会津に派遣
→会津藩を謝罪させ、征討の名目を消す

玉蟲左太夫画像（当館蔵）

新政府の奥羽鎮撫軍派遣

・2月26日　公家の九条道孝・奥羽鎮撫総督を命じられる
副総督：沢為量（公家）、参謀：醍醐忠敬（公家）
下参謀：大山格之助（薩摩）・世良修蔵（長州）

・3月23日　薩摩・長州・筑前（福岡）藩兵を率いて仙台城下へ
→仙台藩に会津藩への出兵を強く迫る

・4月11日
会津へ向け出陣

仙台藩の出陣の様子を描いた刷り物・部分（当館蔵）

水面下での交渉

・会津藩領へ出兵し、戦闘も行ったが会津藩との交渉は続き…

・閏4月1日　関宿（七ヶ宿町）会談

→仙台・米沢藩と会津藩の間で交渉成立

会津藩の謝罪条件（松平容保の城外謹慎・領地削減）
仙台・米沢藩は奥羽鎮撫軍に会津藩の謝罪を取り次ぐ
奥羽鎮撫軍が暴挙に出た場合、奥羽諸藩は結束して戦う

・閏4月11日　白石城で奥羽諸藩の重臣が集まる

→仙台・米沢藩が奥羽諸藩へ呼びかけ
会津藩の謝罪に寛大な処置を乞う嘆願書に調印
嘆願書は仙台・米沢藩主によって九条総督へ提出

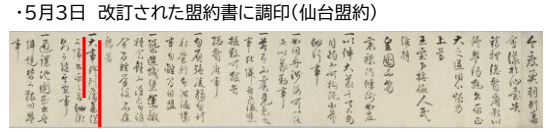
奥羽列藩同盟の結成

・閏4月17日　嘆願書の却下

・閏4月20日未明
仙台・福島藩士が奥羽鎮撫軍下参謀・世良修蔵を殺害
→新政府軍との交渉決裂が決定的になる

・閏4月23日　奥羽列藩同盟の盟約書に調印（白石盟約）

・5月3日　改訂された盟約書に調印（仙台盟約）



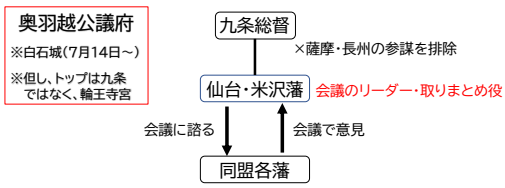
奥羽列藩同盟盟約書・部分（当館蔵）

奥羽列藩同盟の目的と体制

・奥羽鎮撫軍参謀の暴挙を天下に示し公論を仰ぐこと

・「東方より真勤王の旗を掲げ、偽官軍を討払、王政復古を東方諸侯より致上候心得」

（「仙台藩記」、『復古記　第12冊、387頁』）



奥羽越への同盟の広がり

・5月1日　白河城の戦い

・5月10日　長岡藩、新政府軍と戦闘開始

・5月15日　新発田藩、盟約書に調印

・5月19日　長岡城、第一次落城

・7月25日　長岡藩、長岡城を奪回
／新発田藩、同盟離脱

・7月29日　長岡城、第二次落城
／新潟港、陥落

白河口戦闘絵図　複製・部分（当館蔵）

仙台藩の主な戦い

①白河口の戦い（5月1日～9月）
→白河城・二本松城攻防戦など

②平潟口の戦い（6月16日～9月）
→磐城平城攻防戦、駒ヶ嶺の戦い、旗巻峠の戦いなど

③秋田口の戦い（7月14日～9月）
→同盟を離脱した新庄藩や秋田藩への侵攻戦

④越後（新潟県）の戦い
→仙台藩は少人数の派兵に留まる

◇これらの戦いで、仙台藩は1万人以上を動員

・箱館戦争（五稜郭の戦い）
→仙台藩降伏後、藩を脱走した者たち

仙台藩の誤算

なぜ、仙台藩は戦ったのか？

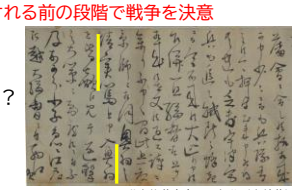
◇「三藩之者共悪逆無道二付、此度御討伐相成候間、少人数ハ横道江引入不人知討取、大人数ハ銃隊二而討取、壱人も御境江被相入候儀相成不申候（後略）」

（「日新録」、閏4月16日）

◇会津藩謝罪の嘆願書が却下＝閏4月17日
→仙台藩は嘆願書が却下される前の段階で戦争を決意

◇世良修蔵暗殺の真意

◇なぜ、仙台藩は戦ったのか？
→勝てると判断したから



世良修蔵密書写・部分（当館蔵）

「奥羽越」以外の連携

・加賀（金沢）藩、紀州（和歌山）藩、西国諸藩との連携を模索
→加賀藩には使者を派遣することを決定
※実際には制海権を握られ派遣できず

・肥後（熊本）藩士の来仙
→仙台へ探索に来た熊本藩士3人、仙台・米沢・会津藩士と密談
熊本藩論を奥羽列藩同盟に味方させるよう約束する

・加賀藩・紀州藩・熊本藩
→大政奉還後、王政復古政変後、薩摩藩の政治手法を批判した
リーダー的存在
→仙台藩をはじめとする奥羽諸藩、西国の大藩も同調

「反薩摩」の会合

・慶応3年10月23日　京都円山会議
→紀州・熊本藩の呼びかけで、仙台・筑前（福岡）・肥前（佐賀）・久留米・
柳川・徳島・鳥取・津など24藩が調印

・同年12月11日　京都二条城会議
→加賀・熊本藩の呼びかけで、福岡・佐賀・久留米・柳川・対馬・岡山・
鳥取・徳島・津・仙台・米沢・二本松・盛岡・秋田・弘前・新発田藩が調印

・同年12月27日　京都
→熊本藩の呼びかけで、福岡・佐賀・久留米・柳川・対馬・徳島・津・
仙台・二本松・新発田藩が調印

◇薩摩藩を批判し、衆議・公平正大な政権運営を求める建言書を
朝廷へ提出

福岡藩への対応

・奥羽鎮撫軍＝薩摩・長州・筑前（福岡）藩兵で当初来仙

◇（前掲）「三藩之者共悪逆無道二付、此度御討伐相成候間、少人数ハ横道
江引入不人知討取、大人数ハ銃隊二而討取、壱人も御境江被相
入候儀相成不申候（後略）」 の続きの文章は…

→「沢三位殿壱人丈ハ御助可申、夫も流矢二相当候者不及是非候、
筑藩ハ助ケ度候へ共、是又不及是非討取可申由等也」
（「日新録」、閏4月16日）

・他にも福岡藩に対しては
「何とか薩長と相分け、怪我などこれ無きよう保護致したき」
（「佐竹義修家記」、『復古記　第12冊』、459-60頁）

→敵兵ながら、薩摩・長州藩とは異なり甘い対応

佐賀藩への対応

◇九条総督の秋田転陣問題
九条総督：仙台藩の監視下にあった
→奥羽列藩同盟の正当性の根拠／対新政府との交渉カード

◇閏4月27日、前山清一郎が佐賀・小倉藩兵を率いて上陸
→九条の救出を目的

◇仙台城下で仙台藩首脳と前山たちが会談
→前山に薩長の暴挙を訴える
九条が仙台から秋田へ行き、秋田から京都へ戻って朝廷に
奥羽の事情を訴えることを約束

◇5月18日　秋田へ向け出発、7月1日秋田着
→7月4日　秋田藩の同盟離脱

◇前山：「万事謀リ候ヨリ外無之」

仙台藩の軍事

◇奥羽諸藩は「旧式銃」で、「新式銃」を装備する新政府軍に一方的
に敗北した、というイメージもあるが…

→仙台藩も数千挺の「新式銃」を所持していた！
慶応3年（1867）夏頃から、江戸や横浜で購入
新政府軍との戦争が始まった後も、さらに数千挺を購入

仙台藩が大量購入した銃は、薩長軍と遜色ないレベルの銃で
あったが…

ミニエー銃。1865年にアメリカの南北戦争が終了
すると、日本に大量に輸入された。
個人蔵・当館寄託

仙台藩軍の実態

◇仙台藩軍＝藩直属兵＋大身の領主の私兵の連合軍
→部隊編成・装備ともバラバラ

・藩直属軍
→新式銃で装備していたようだ

・各領主軍
→各地の領主ごとに異なる
新式銃隊＋火縄銃隊＋槍隊で
1隊を構成するケースが多い
→構成比も領主ごとに相違

『仙台市史　通史編３近世1』166頁

その他の敗因

◇統一されない藩論

（前掲）揺れる仙台藩論：「朝廷の命に従い会津に出兵すべき」
→高級指揮官として戦場に派遣
坂本大炊・真田喜平太・増田繁幸など

◇実戦経験の差
・薩摩・長州藩
→幕末以来、対外戦争、内戦、旧幕府軍との戦闘を経験
・仙台藩
→白河城の戦いが初陣

◇諸藩連合軍の弱点
・奥羽列藩同盟の理念である「衆議」
→軍事には不向き／究極的には藩の自己保存が大事

仙台藩の降伏

・8月28日　米沢藩、降伏を申し入れる
（9月　8日　明治と改元）
9月15日　仙台藩、降伏を申し入れる
9月23日　会津藩、開城降伏
9月25日　盛岡藩、降伏を申し入れる

・10月12日　榎本艦隊、石巻を出航（→箱館戦争へ）

・12月7日　伊達慶邦・宗敦の城地召し上げと東京謹慎の沙汰を下す。伊達家の家名存続と28万石の下賜を決める

・12月12日　伊達亀三郎（慶邦の実子）に28万石の仙台藩が新政府から認められる

28万石の仙台藩

◇仙台藩が召上げられた地域
・北上川流域　→穀倉地帯
・阿武隈川流域　→養蚕地帯
・石巻地方　→港（流通拠点）

◇諸藩の取締地や預け地
→明治新政府の直轄地へ

◇禄制改革
→家臣の禄高の大幅削減
帰農

◇北海道への開拓入植

おわりに

◇仙台藩の政治スタンス
→「衆議」「公論」に基づく政治体制の実現

◇奥羽越列藩同盟
→一地方レベルながら、「衆議」「公論」の体制を実現
戊辰戦争とは新政府と徳川幕府の争いだけでない

◇明治時代の「衆議」「公論」
・自由民権運動
・大日本帝国憲法の発布（明治22年）
・帝国議会の開設（明治23年）
→「衆議」「公論」の制度化が一応の実現